

# The 40th Anniversary of Hijikata Tatsumi's Death: Talking together about Hijikata Tatsumi

21st January 2026, 6pm

Admission Free

Keio University Mita Campus, East Research Building 6F G-Lab



新宿・歌舞伎町のアートビレッジ前の立看板でパフォーマンス。土方巽（左）と観世寿夫。1970年。撮影|細江英公

没後 40 年

土  
方  
巽  
XV  
を語ること

2026年1月21日(水) 18:00 開会 慶應義塾大学三田キャンパス 東館6F G-Lab

ゲストスピーカー | 小林嵯峨 参加無料・入退場自由 オンライン配信あり (Zoom Webiner)

主催 | 慶應義塾大学アート・センター 企画 | 慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイブ、ポートフォリオBUTOH 協力 | 土方巽アスペクト館、NPO法人舞踏創造資源



土方巽没後 40 年を迎えて、2026年1月 21 日に「土方巽を語ること XV」を開催いたします。

2025 年も土方巽と舞踏をめぐって、さまざまなことがあり、土方巽の舞踏が香港、ポーランド、メキシコなど海外に広く紹介されることとなりました。

そして、土方巽と長く交流があつた方々も幽冥境を異にされています。刀根康尚さん、合田成男さん、内藤正敏さん、そして玉野黄市さんらです。

現代音楽の刀根さんは 1960 年代初めから土方巽とコラボレーションを行ない、舞踏批評の合田さんは 1959 年の〈禁色〉から土方巽の活動を見続けてきました。そして、舞踏家の玉野さんは 1960 年代半ばにアスペスト館の門をたたいた土方巽の最初の弟子と言つていいでしょう。

土方巽との長い関わり合いをもつ方々を失いつつ、なお土方巽を語りつづけることから新しい年を始めます。

50 年前の 1976 年、アスペスト館附属の Asbestos-hall では白桃房連続公演を敢行し多くの観客を迎えていました。ついには土方巽は入場者「千五百名限定」と高らかに謳うほどでした。

それから、もはや半世紀ということですが、舞踏の推移は目まぐるしいばかりです。

\*

土方巽没後 40 年のゲストに小林嵯峨さんを迎えます。小林嵯峨さんがアスペスト館に入門したのは 1969 年ということで、当時のつまり幻獣社の小林嵯峨さんを知る人も少なくなっています。それだけに、その数少ない往年の嵯峨ファンにとつて、歌舞伎町に売られた「私の娘」の踊りは幻のように搖曳していることでしょう。

もはや「娘」ではない小林嵯峨さんですが、今も日本を代表する舞踏家として、海外に出向いて土方巽の舞踏を教え小林嵯峨の舞踏を演じています。

小林嵯峨さんには師土方巽についても同志玉野黄市についても、そして世紀を超えた現在の小林嵯峨についても、尽きないお話をいただきます。

例年のように多くの方々のご参集を願います。

(森下隆記)

### Time Table

- 17:00 開場
- 18:00 開会  
土方巽と舞踏を語る（ファシリテーター | 森下隆）
- 19:00 ゲスト登壇
- 20:00 閉会予定



撮影 | 烏居良輔 慶應義塾大学アート・センター / NPO 法人舞踏創造資源

慶應義塾大学三田キャンパス東別館 3 階、慶應義塾ミュージアム・コモンズにて KeMCo 新春展 2026 「馬の跳ねる空き地」が 1 月 8 日より開催されています。《燐儀大踏鑑第二次暗黒舞踏派結末記念公演・四季のための二十七晩》(ギバサン) の舞台写真などあまり公開されてこなかった資料が展示されております。ぜひご覧ください。

### ゲストスピーカー | 小林嵯峨 Saga Kobayashi

1968 年に土方巽の舞踏に出会い衝撃を受け、翌年アスペスト館に入門。1972 年の「四季のための二十七晩」(アートシアター新宿文化)、1973 年の「静かな家」(西武劇場)、「夏の嵐」(京都大学西部講堂)など数々の土方巽作品に主要舞踏手として出演。1975 年にはアスペスト館より独立し、立花隆一と共に〈彗星俱楽部〉を結成、独自の舞踏活動を展開する。その後 1985 年には〈小林嵯峨+鷺 NOSU R I〉を結成。無意識の世界に参入する「アウラシリーズ」を開始し、「月姫」(GEKKI) - 無意識の花(シアタートラム)などを発表。その後 2019 年からはソロおよびグループにて「無題シリーズ」を行い舞踏の原点へと朔行し、再度視野を広げつつ、新たな可能性を探る作業を行ってきた。1983 年には Japan Festival に参加、芦川羊子とともに土方巽作品「日本の乳房」を欧州 6 か国で上演して以来、海外での活動も盛んに行ってきた。

2024 年には自身の集大成とも言える「幻の字の子供」(テルプシコール) 上演、この作品で 2024 年度舞踏批評家協会賞を受賞する。同年、米国のイエール大学での「Butoh Scores」のプロジェクトに招聘され、1977 年のソロ公演「にがい光」の上映、ワークショップ、パフォーマンスを行う。

著書に『うめの砂草—舞踏の言葉』(アトリエサード、2005 年)



イベント HP



ウェビナーリング

お問い合わせ | 慶應義塾大学アート・センター

108-8345 東京都港区三田 2-15-45 Tel. 03-5427-1621 Fax. 03-5427-1620

<http://www.art-c.keio.ac.jp> [kuac-crew@art-c.keio.ac.jp](mailto:kuac-crew@art-c.keio.ac.jp)

Information | Keio University Art Center

Tel | 03-5427-1621 Email | [kuac-crew@art-c.keio.ac.jp](mailto:kuac-crew@art-c.keio.ac.jp)

本事業は 2025 年度科学研究費基盤研究 (C) 「『動きのアーカイヴ』における実証的研究——アーカイヴの創造的利用における国際連携」(25K03758) の助成を受けています。